

# みどりのこえ

秋号  
2013

長野県環境保全研究所

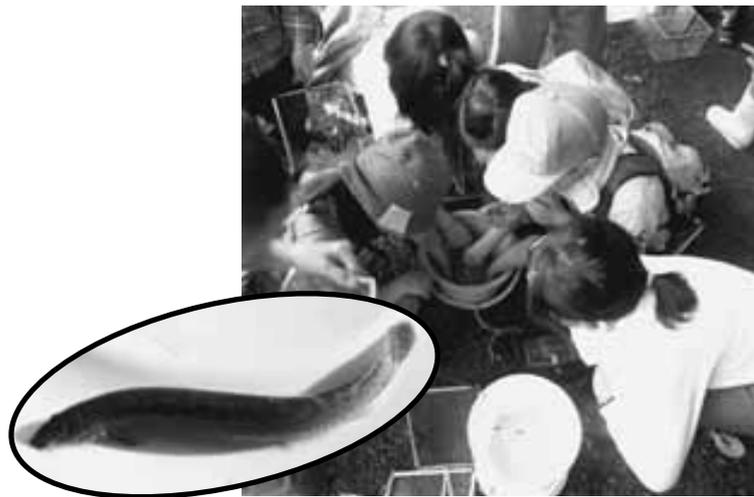
平成25年(2013年)11月22日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075 長野市北郷 2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944 長野市安茂里米村 1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL: <http://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/index.html> E-mail: [kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp](mailto:kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp)

No.47



「ドジョウにさわっておかないと、将来、ドジョウの味が知らないことになる」ことを避ける体験学習。

## ダンゴムシからホッキョクグマへ

文 石塚 徹

幼少期に身近な自然にふれているか否かで、子どもの価値観や将来が大きく変わることは、各方面から指摘されている。たとえば、子どもは成長に伴って、認識できるランドスケープ（ここでは風景・空間・距離感）が広がっていく。4～7歳は、家から見えるような範囲。8～11歳では、ちょっとした探検程度。遠足で行く場所や、電車にしたなら二駅ぐらいだろうか。12歳以上になって初めて、遠く離れた場所のことを想像できるようになるのがふつうだろう。

身近な自然の中で遊ぶことをせずに育った子どもたちに、いきなり地球温暖化、絶滅危惧種、外来種などの問題を説教したら、自然を悪夢のような世界と認識してしまい、自然嫌いになってしまう可能性さえあるのである。

反対に、大きくなってから地球環境の問題を考え、行動できる若者の多くは、幼少期に身近な生きものを友だちにした経験が豊富だという。まずは庭のどこにダンゴムシがいて、神社にはいつになったらドングリが落ちていくかという、子どもがちょっと得意になるような、自分で得た知識を、お父さんやお母さんは大事

にしてあげてほしい。ダンゴムシのすみかを知っていれば、ダンゴムシを飼うとき、どんな湿り気や隠れ家を与えてやれば居心地がいいだろうかと考えられる。ダンゴムシの気持ちに近づけるのだ。その延長上に、ホッキョクグマの厳しい現状が理解できるのである。

もし、虫を死なせてしまっても、それは必ずしもいけないことではなく、とても健全な成長過程だ。ただ「殺しては駄目」と飼わせないのでは、ずっと命の大切さがわからない発達障害さえ起こりうる。死なない生きものがどこにいるだろうか。最後まで責任を持って飼えたのなら、肉や魚を残さず食べる大切さと同じことが学べるのではないか。

年齢や飼育対象によっては、「かわいそうだから逃がしてあげましょう」という指導もしてあげてほしい。但し、「逃がすのならば、必ずもとの場所で逃がしてね」という、遺伝子攪乱を防ぐための指導を忘れてはならない時代に入っている。

(いしづか とおる/NPO法人生物多様性研究所

“あーすわーむ”研究員)

### Contents

【巻頭言】ダンゴムシからホッキョクグマへ	1	【夏の施設公開 2013 フォトレポート】	8
【特集】県版レッドリスト改訂中！		【自然ふれあい講座を行いました】	9
特集の趣旨説明	2	【シリーズ 植物標本庫から】	10
生き物アンテナプロジェクト	2	【フィールドノートから】高山の多様な動物たちをとらえる	11
県版レッドリスト改訂の概要	3	【ご案内】平成25年度のこれからの催し	12
県版レッドリスト改訂：植物編	4-5		
県版レッドリスト改訂：脊椎動物編	6		
県版レッドリスト改訂：無脊椎動物編	7		